

社会資本整備審議会 道路分科会

第13回近畿地方小委員会

議事概要

1. 日時 平成27年7月13日(月) 16:00~17:25
2. 場所 近畿地方整備局 第一別館 2階 大会議室
3. 出席者

[委員]

いづか 飯塚	あつし 敦	神戸大学自然科学系先端融合研究環 都市安全研究センター 教授
うの 宇野	のぶひろ 伸宏	京都大学経営管理大学院 准教授
うらお 浦尾	たか子	京南倉庫株式会社 常務取締役
かわもと 川本	よしみ 義海	福井大学大学院工学研究科 准教授
こばやし 小林	きよし 潔司	京都大学経営管理大学院 教授・経営研究センター長
むねた 宗田	よしふみ 好史	京都府立大学大学院生命環境科学研究科 教授
やました ◎山下	あつし 淳	関西学院大学法学部 教授

※敬称略、五十音順 ◎は委員長

4. 議事

(1) 計画段階評価について

- ・名神湾岸連絡線

(2) 議事概要

<委員からの主な意見>

■政策目標の設定、対応方針(案)の検討について

- ・ルート帯を一つとした考え方をしっかり説明し、その上で構造を提示したということを確認すること。
- ・地域の安全性だけでなく「通行車両の走行安全性」を比較項目に追加してはどうか。また、周辺道路への影響として「地域分断」を加えるべき。
- ・課題にある「防災」は、近年の動向を踏まえ「防災・減災」とすべき。
- ・定量的な記載は困難と思われるが、ランニングコストを含め事業費に反映できないか。
- ・資料構成としては、必要性(整備効果)を示した後に、対策案(ルート帯)を示すべき。
- ・渋滞緩和などの整備効果については、わかりやすいデータを示すなど工夫が必要。

■（第2回）地域からの意見聴取方法について

- ・自由意見には貴重な意見もあるので、返信用はがきのレイアウトについて配慮すること。
- ・配付資料はできるだけわかりやすい表現とすること。
- ・今回の意見聴取ではルート・構造が公表され、沿線住民等からの問合せも想定されることから、オープンハウスなどによりきめ細かく対応できるよう配慮が必要。
- ・前回意見聴取で、名神湾岸連絡線の必要性に関してなお十分に聞いていないのであれば、今回、質問④で再度確認することも必要。

■今後のスケジュールについて

- ・本日の意見を踏まえて作業を進める。

■その他全般について

- ・大阪湾岸道路西伸部と名神湾岸連絡線がセットで整備されることが必要。
- ・計画を決める際に、国はこれだけ丁寧な手続きをしていることを国民に知らせるべきではないか。
- ・丁寧に説明し理解してもらうことは大事。一方、決められた計画は早期に実施していくことも重要。

－ 以 上 －